午後１時零分再開

○議長（浅尾静二君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君）　ただいま議長から質問の許可をいただきました10番議員の中島でございます。

午後１番の質問となります。眠い時間だと思いますが、どうぞおつき合いいただきたいと思っております。毎回、１番の順番をとられる議員さんがいらっしゃいますが、私は、きょうは９人中の８番目でございます。最近、この位置が多いです。

一般質問の第１日目に、重松議員、冨田議員、実藤議員が、財政については質問済みでございます。

私は、もう聞くことが少なくなったのですけれども、きょうは２日目で、中２日ございましたので、復習として許していただきたいというふうに思っております。

政策的なことを、一般質問として意見を交わせるよう、心がけたいというふうに思っております。

細かいことを聞くとお感じになられるかもしれませんけれども、市長２期目の任期の総仕上げの年でもありますので、その実像を捉えたいというふうに思っております。

あとは質問席から質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　では、通告に従いまして質問させていただきます。

今回、財政見通しについて、市長施政方針について、コミュニティとの協働による地域運営についての３つを上げさせていただいております。

順番どおりやっていきたいというふうに思ってるんですが、１番目の財政見通しと市長方針について、並行してやっていくような市長方針の中に財政を織り交ぜながら、質問をさせていきたいと思っております。そういった組み立てをお許しいただきたいというふうに思っております。

私は、きのうの夜、市長の施政方針を何度となく読みました。10回以上は読ませていただきまして、こんなに読んだのは久しぶりというか、初めてだなというふうに思っております。

想像力を働かせて、市長が何を考えているんだろう、そして、この施政方針で朝倉市はどうなるのだろう、そういったことを想像いたしました。

そして、前回の議会のときに、新たな財政見通しが出るという答弁をいただきまして、前回の全協で財政見通しが出まして、それも、今回、質問の題材に使わせていただいております。

この数字を見まして、私はちょっと言葉がうまく表現できないんですけれども、いい資料だなっていうふうに思っております。

何て申し上げていいかよくわからないんですけど、数字が生きているといいますか、そんな感じがいたします。担当課の渾身の作だなというふうに、私は感じております。

この財政見通しから、私は俯瞰をしたら何が見えるのかなと、そういった全体像をつかみたいというふうに思っております。

それと、この物事の後ろに隠れている事実というのは何だろうと、この２つ、俯瞰をして見るということと隠れている事実を洞察する、こういったことをやっていきたいというふうに考えております。

では、まず施政方針を読み解いていきたいというふうに思っております。

では、済みません、読ませていただきます。

「朝倉市は、昨年３月、地方創生を図るための朝倉市総合戦略を策定いたしました」済みません、１ページ目の終わりのほうなんですが、「人口減少を克服し、魅力ある地域社会を創造していく地方創生は、一朝一夕になし遂げられるものではありません。私は、後ほど述べます重点施策の６本の柱の中に、具体的な取り組みを織り交ぜ、これからも地方創生を推し進めてまいります」というふうに書いてあります。

その一方で、朝倉市の予算編成方針という文章もいただいております。

その中で、重点施策としてあるのですが、その中で朝倉市人口ビジョンのことが書いてあります。

国立社会保障・人口問題研究所が示す朝倉市の人口は、2040年、平成52年には３万8,700人、もう一度申し上げます。2040年、平成52年には３万8,700人、2060年、平成72年は２万7,300人と推計している。

朝倉市の人口をホームページで調べてまいりました。１月末現在で５万4,675人というふうに書いてあります。この推計どおりになったと仮定しましたらば、2060年には相当な数の人口が減ってしまうと、５割ぐらいになってしまうというようなことではないかというふうに思っております。

大体、日本の人口が３分の１に、50年間で３分の１が消滅するというふうに言われておりますので、朝倉市もそのとおりなんだなというふうに感じております。

そして、朝倉市の人口ビジョンというのも一緒に出ております。これは、少し上向きの補正を加えているというふうに書いてありますが、同じく2040年、平成52年に４万1,500人から４万2,800人、2040年には４万1,500人から４万2,800人、そして、2060年、平成70年には３万4,100人から３万6,700人でございます。

当然、これは少し上向きの補正を加えてあるというふうに書いてありますが、生産年齢人口が減って、多分、人数もそれなりにいますけれども、高齢化が進んでいるものと思います。

どこの自治体もそうですけれども、私たちはこの人口減少という恐怖と戦うといいますか、それを目標に掲げている自治体が多いというふうに思っております。

前置きが長くなりましたが、魅力ある地域社会を創造していく地方創生は、一朝一夕にはなし遂げられるものではありませんというふうに、市長はうたっております。

私はこれを読みまして、まず感じましたのが、確かに一朝一夕ではできないと、ですけれども、やはり今の時代、この人口減少という危機を乗り越えていくために、スピード感が必要なんではないかと、一朝一夕ではできないというようなのんきなことを言っている場合じゃないんじゃないかというふうに、第一印象として思いました。

私は、行政には、これからスピード感が求められていると、もう待ったなしなんだと、そうしないと人口減少にあらがえないというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　一朝一夕にはということは、急にしたりとかという意味ではなくて、末永くずっとこの問題に対して意識を持って当たらなければいけないという意味も込められているというふうに思っております。

それから、スピード感につきましては、もちろんされるものについては、その時々にスピード感を持って、ただ、計画もなしにやみくもにやるのではなくて、一定の計画性というものが必要になろうかというふうに思っております。以上です。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　今のお話だと、地道にじっくりとやっていくんだと、それと、めり張りをつけて、スピード感が必要なものにはやっていくということというふうに私は理解をいたしました。

急に人口がふえるということは、私はないというふうに思っております。

ですけれども、でも、座して死を待つわけにはいきません。やはりそこで流れに逆らって、何かをやっていかないといけないというふうに思っております。

そういった意味で、一朝一夕にできないというのはわかるんですけれども、何かいま一つ、力強さを私は感じないんですが、これについてはいかがでしょうか、もう一度お願いいたします。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　実際の地方創生に取り組むに当たっては、どのような事業をするかということが具体的な形としてあらわれてまいります。

そのときに、市長の施政方針の中にもありますように、スピード感を持ってというふうな言葉もありますし、後で振り返ったときに、きちんとできていると、それでよかったというふうな、そういうふうな考え方が必要というふうなことを市長も申されておりますので、一つ一つの事業につきましては、きちんとやっていくというふうに御理解願いたいというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　拙速にやるべきではないというふうに思っておりますが、しかし、やはり人口減少にあらがうためには、結果を出していかないといけないというふうに私は感じております。

では、次の部分に移りたいというふうに思っております。

２ページ目の終わりのほうなんですが、「私は人口減少や高齢化という北風に顔を伏してしまい、無気力や閉塞感を感じ、萎縮してしまうことがあってはならないと考えております。市民の笑顔が絶えないよう、市民や地域が持っている底力を発揮させ、朝倉市の明るい展望と希望を描きたいと思っております」この中で、「市民や地域が持っている底力を発揮させ」ということで書いてあります。

私は、精神論としてはわかるんですけれども、具体的にはどうやって地域や市民が持っている底力を発揮させようとお考えなんでしょうか、お尋ねします。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　市民、地域につきましては、私たちが思っている以上に、活力はあるというふうに思っております。

そういった活力をいかに引き上げるかというのが、行政の大きな役割だと思っておりますので、具体的ではございませんけれども、協働とか、それから市政に対するさまざまな御意見とか、そういったものをきちんと吸い上げていくということが、大事になってこようかというふうに思っております。

底力といいますと、一人一人が活動するということもございますが、市の行政に対しまして、きちんとものを言っていただくと、それに対しまして市としてはきちんとお話を聞いていくと、そういったことが底力の発揮につながっていくのではなかろうかというふうに思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　活力を引き出して、きちんとものを言っていただくという言葉が出ました。

活力を引き出すということは、職員の皆さんがリーダーシップの先頭を走って、コーディネートをしていったりとか、リーダーシップを発揮して、地域の持っているその力をまとめ上げていくと、そういった私はイメージを持っております。

それと、一方で、きちっと思っていることは言ってくださいと、そういったものを言ってもらうというふうにとりました。

そういった中で、「北風に顔を伏してしまい、無気力や閉塞感を感じ、萎縮してしまうことがあってはならないと考えております」こういった文章が入っております。

これは、朝倉市の現状をあらわしているから、あえて入れていらっしゃるんでしょうか、どういった意図で入れていらっしゃるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　元気を出して、前に向かってほしいという意味合いでございます。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　そんなことはないけれども、元気を出して前に向かって進んでほしいということで、入れていらっしゃるということですね。

私は何かそういった部分とか、そういった声が聞こえていらっしゃるんじゃないかと思って、そんなことないよと、現状を打破しますよと、そういうつもりで入れていらっしゃるんじゃないかというふうに思ってるんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　そういう意味合いもございます。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　そういった中で、次に「朝倉市の明るい展望と希望を描き続けたいと思っている」と書いてあります。

朝倉市の明るい展望というのは、どういったことを指すんでしょうか。

私は、人口がふえるとか、財政が黒字化するとか、経済が活性化するとか、そういった、これは、私、大事なところだと思うんです。どういったビジョンをお持ちなんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　ちょっと、今、市長も答えろというふうな話が出ましたので、ちょっと答弁させていただきますが、いわゆるその前の質問で、いわゆる住民の底力と活力ということでありました。北風も吹いて、今、瀕死の状態だ、そうあるということじゃないんです。そういうことがあってはならんということで、入れているということです。

それと、今でも地域によっては、非常に、どこの地域も頑張ってありますけれども、頑張っているところあります。

例えば、地元の金川地区、黄金川の問題で、地域の住民の人たちが中心になって回ろうということで、あれはもちろん行政も一緒にやってますけれども、やっぱり地元の人たちが頑張ってある。

あるいは杷木の松末地区、非常に今、人口減少が激しい、高齢化が進んでいるところです。そこでも、地域の人たちが中心になって、ソバを自分たちでつくって、それを製品化して売り出そうというふうなことで、しっかり取り組みがなされております。

そういった取り組みが各地区地区で、今、行われております。そういったものをもっと元気づけてやっていこうという意味も含まれておるということです。

それから、朝倉市の明るい展望という話が出ましたけど、これについて言いますと、いろんな考え方があろうと思います。

それは、個別的に言うならば、経済がよくなるとか、いろんなものがあると思いますけれども、何よりも、やはりここに、朝倉市に住んでいる人たちが、この地域に住んでよかったと思えるような地域だろうと思うんです。

これは、例えば、人口減少が、要するに進んでいっても、そこに住んでいる人たちがいかに幸せを感じるかというのが、最終的には一番大事なことだろうと思いますので、その上で、人口が減らないようにやるということだろうと思うんですけれども、何よりもやっぱりこの朝倉市の住民の皆さん方が、朝倉市に住んでよかったなと、本当に幸せだなと感じられるような地域づくりが、最終的には明るい展望だろうというふうに思っています。それに向かってやっていくということだろうと思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　朝倉市の明るい展望というのは、いろいろあるけれども、最終的に朝倉市の住民の方が朝倉市に住んでよかったと、そういうふうに思ってもらうのが、明るい展望なんだということ。

しかし、それって、わかりづらいといいますか、だと思います。

ブータンでしたっけ、ＧＮＨですか、国民総幸福、幸せ、そういった考え方も確かに概念としてはございます。

だけど、それって、市長がアンケートをとって回るとか、各コミュニティに回って聞いて回るとか、そういったことをしないと、市長、それは市長にもわからないし、つかみようがないんじゃないでしょうか。

それは、市長、それだと捉えられないんじゃないでしょうか。そこの点はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　そのとおりだと思います。

今の福岡県知事、小川知事が、県民幸福度と打ち出されて、知事選に当選をされました。

それについて、その後、幸福度について県内の調査はしておりますけれども、じゃあ、これだから幸福だというのはなかなか出てこない。

と申しますのも、人それぞれに自分なりの価値観、そういったものがあります。ですから、それはいろんな価値観があるわけですから、それを一概にこれだけ、こういうことだから幸せよと思う人、あるいは違うことを幸せと感じる人、いろんな人がいらっしゃるだろうと思います。

そういった中で、あえて言うならば、やはり自分のこの朝倉に住むことに対する誇りといいますか、郷土に対する誇りといいますか、そういったものを、これは最低限、どなたもそのことについては、持ってあると思うと思うんです。ですから、そういったものだろうと思います。

具体的に、じゃあ、何をもってするかと、そうなってくると個別的な問題になってくる

かもしれません。例えば、経済的な問題、いろんな問題出てまいります。

じゃあ、例えば経済的な問題にしたら、俺はそんなに金要らんばいと、幸せに食うていければいいという価値観の人もいらっしゃるわけです。

ですから、そういったことを含めて、やっぱり総体的に見ながら、やっぱり数字としては出てこんかもしれんけれども、そういったものをやっぱり市、行政の立場から、住民をきちっと観察をするというか、見ていくということが大事なんだろうと、そして、その上で判断していくということしかないのかなというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　市長、ここで、私、提案なんですけれども、市長の、来年度は最後の仕上げの年でいらっしゃいます。

そういった中で、朝倉市に住んでよかったというふうに、市民の皆さんにやはり思ってもらいたい、それだったら、私は、市長は大変でしょうけれども、いろんな玉が飛んでくるかもしれませんけれども、後援会としてはなさってあるかもしれません。

しかし、朝倉市の市長として、各地区を回られて、やはり声を聞いて回られたら、私はそれが本当の仕上げの年になるのではないかなというふうに思っています。

アンケートをとるというのも、確かに大事かもしれませんが、でも、やはり現場に真実があるといいますか、事実が横たわっていることということはよくありますので、私はあちらこちらの地域に出向いて、声を聞くべきだというふうにお考えですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　それは当然のことだろうというふうに思います。

私は、比較的、市の至るところに出かけているほうだと思います。

実は、昨年からことしにかけても、朝倉市の各小学校区単位あるいは中学校単位ですけれども、市政報告会というのをやらせていただきました、十数カ所。その中でもいろんな意見をお聞きしておりますし、また、市長としていろんな各地区の行事等に、これも極力出ていっていろんな話をさせていただいております。

ですから、そういう意味では、私自身としては、結構って自分で言うのも何ですけれども、実際出ていって、いろんな人の話を聞いているつもりです。

もっと頑張れということであれば、もうちょっと頑張らせていただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　市長が出ていって、そういうふうにお話になっているのはよくわかっております。

私が、さらに、もっとというふうに申し上げたいのは、後援会の方はやはり市長のファンの方が多い、それからいろいろな会合というのは、やっぱり役職の方が多い、そういった中で、今まで市長が出会うことのなかったような層の方、そういった人たちの意見をも

っと吸い上げたら、もっと仕上げの年としていいんじゃないかというふうに思っております。

ちょっとよくわからないんですけど、例えば若い女性とか、そういった層というのは、なかなかお話になることはないですし、市長と話せるといったら意外と喜ぶかもしれませんし、そういった意味で、ぜひともやっていただきたいというふうに思っております。

では、済みません、続きをさせていただきます。

同じところなんですが、「市政を担わせていただいたこれまでの間、施策の事業の選択と集中に努めてまいりました」というふうに書いてあります。

済みません、私、選択と集中、何があるのかなというふうに、ぱっと頭に浮かばなかったんです。ここのところは、余りできてないのかなというような、確かに大型事業やっているけれども、ソフト事業で選択と集中、資金は確かに大型事業のほうに選択したよな、集中してるよな、ですけど、ここの部分はもうちょっと頑張りましょうみたいなふうに、私は思ってるんですが、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　中島議員あるいは議員さん方、あるいは一般の方々の、いわゆるこういった形で予算として当然出てきて、こういう施策をしますというものしか、恐らく目にとまってないと思います。

それ以前に、いろんな案が上がってくるんです。それ、全部しよったらとてもじゃないけれども、財政的にも、人的にも厳しいということがあって、それを十分、予算編成の前の段階で、それを、これはもうちょっと待っとこう、やめようと、しかし、これはやろう、そういう意味での選択と集中というものをやってきておりますし、また、当然そうだろうと思います。

ただ、今、大型事業という話がございましたけれども、たまたま私が市長になった時期がそういう時期でもあったということも、一つは言えるんじゃなかろうかなというふうに思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　表に出る前のプロセスのところで、結局、ふるいにかける部分もあると、そういった部分も確かに選択と集中だというふうに思っております。

でも、このプロセスって、やはり市民の方も関心があって、私はここの部分は、もっと情報公開すべきではないかなというふうに思ってますが、その発信については、部長、どんなふうにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　今の考え方は、決定したものを出すというような形にいっとるんです。途中の内部の段階というのをいかに出していくかということですけれども、例えば大型事業、庁舎とか、それから十文字公園とか、それから秋月小中一貫校の問題とか、

予算そのものではございませんけれども、さまざまな、委員さん方になる場合もございますけれども、決める過程におきましては、意見なり考え方を十分取り入れていくということでございます。

ですから、予算の過程というのは、なかなか難しゅうございますけれども、大きな事業なり、皆さんに関心があることにつきましては、随時出していくというような姿勢ではおるところでございます。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　これからの行政というのは、やはり積極的に出していくというスタンスが大事じゃないかなというふうに思っております。

それで、市民の理解が深まるんであれば、悪いことはないというふうに思っておりますので、できる限りで結構ですので、説明といいますか、そういったプロセスを明らかにしていっていただきたいというふうに思っております。

では、済みません、次の部分に移ります。

基金のことが書いてありまして、６年間で33.8億円の増と、基金が増になったと、「一定の財源確保を行うことができました」というふうに書いてあります。

ここも済みません、私、ちょっと違和感を覚えたんですけれども、ここで財政見通しのところにもちょっと関係あるんですけれども、そもそも基金というのは、簡単に言うと貯金であったり、預金であったり、使うためのお金をためている部分なんですよね。

ですから、これは使うためにためているわけですから、使ってもいいわけですけれども、ですけど、それを財源と言うのはどうなんだろうと、イメージとしてやっぱり基金というのは使ってはいけないもの、将来の安心のため、それとか、もうよっぽど災害があったときとか、そういったときに残しておくようなもの、まさかに備える保険みたいなもんじゃないかというふうに、私はイメージを持っております。

そこで、財政見通しの中にも基金を崩すパターンもございました。この基金について、これは、基金というのはさわったらいけないと、ずっと未来永劫、残しておかないといけないもの、災害が起きたときにしか使ったらいけない保険みたいなもんだというふうに、私は思っております。

この考え方って間違っているんでしょうか。どのようにお考えかお尋ねします。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　基金の種類を見てみますと、財政調整基金、それから特目基金といたしまして、公共施設なり、減災基金なり、それからスポーツなり、さまざまございます。

それぞれの目的に応じて、その財源とするということにつきましては、必要な場合は、その財源としていくことは必要だろうというふうに思っております。

ただ、先ほど言いました種類の中の財政調整基金といいます、そちらについては一定程

度の確保は必要だというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　朝倉市の予算編成方針の中に、「景気はこのところ弱さも見られるが、穏やかな回復基調が続いている」これは、済みません、９月の月例経済報告によればということで、紹介されているんですが、「先行きについては、雇用、所得環境の改善が続く中で、各種施策の効果もあって、穏やかな回復に向かうことが期待されている」というふうに書いてあります。

今まで、私たちは、失われた20年、デフレマインドの中で生きてきまして、お金をためて手元に置いておくことがいいことなんだと、使わないことが美徳なんだという気持ちが、まだ根強く私は残っているというふうに思っております。

でも、世の中は少しずつ景気が回復していって、いい方向に向かっているんではないかというふうに私は実感をしております。

そういった中で、基金を使わないというのは、これ貯金だから絶対、指一本触れちゃいけないんだと、そういうことは、ある意味デフレマインドといいますか、効果があるものだったら崩して使ってもいいんじゃないかなという考え方も、私はできるというふうに思ってるんです。

ですけれども、今までずっと積み重ねていった呪縛みたいな、そういった固定観念みたいなのも、しっかり20年間の中で植えつけられております。

こういった中で、財政見通し、１、２、３で基金を取り崩すパターンもございますけれども、それでも、やはり10億円の基金は崩すようなパターンで書いてありますが、市長、基金を壊すということについては、市長はどのようにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　先ほど総務部長が答弁いたしましたように、基金もいろんな性質の基金がございます。

一番、今のは財政調整基金ですが、それからあと減災基金、それから朝倉においては公共施設等基金、それから地域振興基金、まちづくり基金というふうに、幾つか種類がございます。

その基金によって、やっぱり将来の必要な施設、あるいは何か事業をするときには、取り崩してもいいだろうと思いますし、例えば財政貯調整基金とか、減災基金はちょっとあれですけれども、そういったものについては、極力やっぱり将来の不安のために残しておくということは、大事なことだろうと思います。

今、中島議員、言われましたように、特に今の企業における内部留保というのは、すごい日本全体の企業、そしたら、なぜ内部留保するのかというと、将来に対する不安なんです。

ですから、この不安が解消されない限り、なかなか企業も内部留保を使わないだろう。

それと同じように、行政においても、やっぱり将来不安があるならば、やっぱり財政調整基金とか、そういったものはきちっとある程度ためておくということは必要だろうというふうに思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　私は、基金は指一本触れてはいけないと、そういうつもりはないんですけれども、でも、やはり今までずっと積み重なってきた気持ちといいますか、そういったものもありますので、基金が残っているほうが市民に安心感を与えるのかなと、使わないで済むなら、残っているほうが安心感を与えるのかなというふうには思っております。

ですけど、使わないで、何もしないで、座して死を待つような、そういったことはあってはならないと、やはりやるべきことはやっていくべきだというふうに考えております。

そういった中で、この財政見通しなんですけれども、それを見まして、いろいろ１、２、３のパターンがあるんですけれども、私は、まず、先ほど言いましたように基金を、40億円の部分の基金をさわって、合併特例債を使わない、満額使わない、190億円使わないパターンと、基金を崩すのを少なくして、合併特例債を目いっぱい借りる、２つのパターン、試算表３がそのパターンになるんですが、の２つのパターンがございます。

私は、基金は残しておったほうがいいと、そして合併特例債は有利だから使うべきだという考えを持っております。

ですから、私は試算表３が、現実的な試算だというふうに考えておりますが、基金を崩したほうがいいんでしょうか、それとも合併特例債を使ったほうがいいんでしょうか、そこの部分はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　どちらかという選択を迫られるとするならば、合併特例債のほうを使っていったほうが、財政収支的にはよろしいかというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　この財政見通しにつきましては、１日目に質問された答弁の中で、これはデータ上の数字なんだと、試算なんだと、それから財政計画ではないと、あくまでも客観的な情報なんだというようなお言葉がありました。

私も本当によくできた見通しだなと、全ての見通しが網羅されているんではないかというふうに思っております。

そういった中で、私がよく使う言葉なんですけれども、空、雨、傘のフレームワーク、もう一度言います。空、雨、傘、空が曇ってきたと客観的に事実を認識し、雨が降りそうだとその状況を解釈し、傘を持っていこうと行動する。

私はこの財政見通しというのは、空が曇ってきた、ちょっと、ここ済みません、表現と

いうか、例えが悪いのかもしれませんけど、そういった客観的な事実を、データを全て網羅して入れている表だと思うんです。

ですから、ここに、やはり解釈を加えないといけないと思うんです。そうしないと、仏をつくって魂入れずで、やはり解釈を入れていって、それをある程度の共通認識として、持っていくべきではないかなというふうに思っております。

そういった中で、試算表３で話を進めさせていただくんですが、やはり基調としては、ちょっとやはり財政的に足りないのかなと、もちろん予算総額に対して１％ほどの赤字の数字ですので、誤差の範囲内であると思います。

それと、先ほど言いましたように、経済状況がこれから上向きになることも予想されますので、ひょっとしたらこんなに悪くならないかもしれません。

ですけれども、この表を見て、やはり何かの解釈を加えていかないといけないと、私はそういうふうに思っております。

それが政治の責任といいますか、政治と経済、私は今の時代は切り離せないというふうに思っておりますので、そこの解釈を加えて、やはり行動を決めていかないといけないというふうに思っております。

そういった中で、気になりました点があります。

それは、甘木駅の周辺整備の分について、金額が固まってないというのはよくわかるんですけれども、だけど入ってない。しかし、施政方針の中には、やはり朝倉市にとって非常に大事な事業であるというふうに書いてあります。

合併特例債を使うための、朝倉市新庁舎の建設であったり、そういった平成32年度という締め切り効果は、この甘木駅周辺整備にはないかもしれませんけれども、いつできるかわからない話ですけど、朝倉市にとって大事な事業であれば、それなりに私は入れておくべきではないかというふうに思っております。

そして、また、その数字を入れることが、早く取りかかるきっかけになるんじゃないかというふうに思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　甘鉄、甘木駅周辺整備事業につきましては、市負担額とかも概算の概算というような数字を出しておるわけですけれども、これに入れるとしますと、その市負担額、概算額をもし入れるとすれば、その財源はどうなるかということで、将来の見通しが変わってきます。

つまり、例えばその整備期間が３年間で終わるのか、５年間で終わるのかということで、先が変わってくるということと、財源が基金にするのか、例えば起債を借りるのかというようなことでも、大きく変わってまいります。

例えば、起債で行うということになりますと、今のこの財政見通しの考え方としますと、例えば将来15年、20年にわたって分配していくものですから、その工事期間が極端な負担

が大きいというものにはなりません。

ですから、そういったところがまだ未定の部分がございます。いつからと、工事期間と財源と、そういうようなものが決まっておりませんので、今の段階で入れるには、なかなか難しいものがあるというふうに判断しております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　時期尚早だということだと思うんですが、私はこれ、小言を言いますよ、朝倉市のやはり行政の動きとして、やっぱり先手先手で動くべきだというふうに思ってるんです。

やはり幾つかの今までの事業を見てまいりますと、もうちょっと早く動いていれば、何とかなったんじゃないかなと思うものがあるものですから、そういった意味で早目に、気が早いかもしれないけれども、入れておくべきじゃないかというふうに思ってるんですが、この点、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　この事業につきましては、県と鉄道業者との協議がまだ未定でございます。地元の合意形成もまだ未定でございます。それから、国道事業とのかかわりが、まだ決まっておりません。そういった中で、先手をしようにも、いつからというものが大変不透明ということでございます。

ただし、そういう事業には取り組むということでございますので、まずは構想を練るということで、新年度予算には、構想を練るための費用につきましては計上しておるという段階でございます。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　朝倉市の人口動態に大きな影響を与える分野であるということを書いてありますですよね、そういった中で、中心市街地の新たな発展が望めると、そういったことも書いてますよね。

そういった大事な事業というのはわかっていると、だけれども、財源のことはちょっと置いておこうと、考えないと、それって片手落ちじゃないですか、何か言ってることが説得力がないような気がするんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　いわゆる甘木鉄道あるいは西鉄甘木線の322のクランクの解消について、それとその周辺の開発についての御質問であります。

それも、いわゆる財源、この見通しの中に入れなさいというのが、中島議員の御質問だというふうに理解します。

今の時点ではなかなか入れられないというのが、正直の状況と、さっき言いましたような事情です。

あそこの市がやる分は、あそこの開発の事業ですけれども、これについても国道事業と

一緒でないとできない事業なんです。

その肝心な事業が、国道事業が、県はその気になっていただいておりますから、国道ですから国の認可を得らなきゃならん、まだそれも未定、あるいはそれをするには西鉄の了解も得らないかん、そういった段階で、今の中に、あの中に入れるというのは非常に難しいです。

ただし、私どもとしては、当然それは将来やっていくんだという思いの中に、あそこに入れなくても、その分はきちっと考えながら、財政についてやっていくということなんです。

はっきりした時点で、その中に落とし込んでいくということになろうかというふうに思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　私もやってほしいし、やりたいです。

ですけれど、現実としてできるんだろうかという不安もございます。

そういった部分を払拭すると言ったら変ですけど、確かに難しいのはよくわかります。むちゃを言ってるのもわかりますけれども、ですけれども、そういった部分でやれるんだと、これは、もしやれなかったら何とかしてやらないといけないと、そういうふうに思ってますので、そういった部分の財政的な裏づけといいますか、そこら辺がやっぱりほしいんです。これについてはいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　事業が固まり、市民の皆様の御意見等も踏まえることになろうと思いますが、そういった事業を進めるというような方向性が決まったならば、基金を使うこともあるというふうに思っております。

基金につきましては、使うためにあるというふうなものでございますので、そういった選択肢は当然出てくるかというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　時間もなくなってきましたけど、ちょっと次の話題に移りたいと思います。

そういった財政見通しを見まして、私は、印象としては少しちょっと赤字基調かなというふうに思っております。

そういった中で、どうやって、財政の基本は、「入るを量りて出ずるを為す」ということでございます。収入をふやすか、支出を減らすかのどちらかしかございません。

私は、そこで、収入をふやすというのは、人口をふやしたりとか、固定資産をふやすとか、そういった方法があるんですけれども、何かないかなというふうに、きのう考えておりまして、やはり、ふるさと納税が一番手っ取り早いと言ったら言葉が悪いんですけれども、いいんじゃないかなというふうに思っております。

まず、朝倉市のふるさと納税を見ましたらば、これ、ふるさとプラザ、ホームページでインターネット上で、あっ、ふるさとチョイスです。それを見ましたらば、2008年からのデータが載ってたんですが、2008年は13万円、そして、ちょっとずっとありまして大体10万円前後がずっと続くんです。

そして、2014年は77万2,000円、そして、2015年になりましたら２億1,030万8,000円、そして、ことしは４億円近くになろうと、もう飛躍的に伸びているといいますか、びっくりするような伸び方なんです。

そして、近隣の市町村を見ましたらば、これはもうちょぼちょぼなんです。朝倉市というのは、本当にふるさと納税の優等生でございます。

そして、どんな返礼品があるのかなと思って見たら、もうとにかくいっぱいあるんです。

ですから、私は、ふるさと納税を、朝倉市、今、勢いがついてますので、４億円とは言わずにもっと伸ばしていく、今、勢いがついていていいんじゃないかなと思っております。

４億円といったら、大きい金額のように思っているんですけれども、まだまだ上には上がありまして、調べましたらば、九州で１位は都城市の42億円です。それから、平戸はこれ７位なんですけど26億円、４億円なんていうのは、私は夢ではないんじゃないかと、もっともっとふやせるというふうに思って、４億円以上とるというのは夢ではないというふうに思っております。

ですから、ふるさと納税でやっていくべきだと思っております。

ただし、ふるさと納税っていうのは、自治体による通販とか言われるぐらい、商品で寄附を集めるという部分も大きくあります。

朝倉市は果物がたくさんあって、非常に品数が多いのに驚いたんですけれども、普通、ふるさと納税は、原価と言ったら変ですけれども、経費、人件費とか、それからお礼品の分、大体50％と言われているんですけれども、朝倉市はどれくらいなんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　人件費、それから送料等を含めまして、55％が経費となっております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　55％ということで、50％強でございますけれども、１億円もらっても半分ぐらいしか使えないということですが、それだったらそれを踏まえてやはり戦略を立てて、ふるさと納税を、今、朝倉市は、私、魅力あると思います。ほかの自治体の分も幾つか見ましたけれども、絶対にいけると思いますので、やっていただいたらどうかなというふうに思っております。

そういった中で、ちょっと、朝倉市に足りないなと思いましたのが、まず動画、動画が朝倉市、やっぱりあったほうがいいのかなと、島根県の浜田市と平戸のを見ましたけど、

やはりふるさと納税がどういうふうに使われているかという息遣いが見えますし、まちの雰囲気というのがよくわかります。

ですから、大体４分ぐらいの動画、島根県の浜田市は４分ぐらいの動画でしたけれども、そんなに長くなくてもいいですから、私は動画が必要じゃないかなというふうに思っております。

それと、もう一つ、これも提案なんですが、体験型の返礼品というのがいいんじゃないかなというふうに思っております。

福岡県の苅田町では、消防士体験というのが返礼品であるそうです。夏に放水すると非常に気持ちいいとかいうようなのがありましたので、体験型で、それとか、長崎県の松浦市では、養殖マグロの解体をさせてくれるとか、そういうのがあるそうです。

体験型のふるさと納税をすると、その人が朝倉市に来てくれて、何か食べてくれて、ひょっとしたら泊まってくれる、そうやってお金を落としてくださいます。そして、ひょっとしたら朝倉市のことを好きになってくれると思います。

そういった意味で、税金もいただけますし、それに、そういった体験型で朝倉市に足を運んでくれる。そういった意味で、交流人口もふえるということで、非常にいい仕組みじゃないかなと、ですから私はふるさと納税を使って、税収アップを図るべきというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　体験型につきましては、例えば、このお礼の品の一つといたしまして、原鶴温泉の宿泊とかも入っております。これも体験の一つになろうかというふうに思っております。

これにつきましては、人気があるというまではいきませんけれども、かなり応募があっておるという状況でございます。

どういったお礼の品をするかにつきましては、今、御提案ありました体験型を含めまして、さまざまなお礼の品を考えていきたいというふうには思っておるところでございます。

ただ、お礼の品の中で一つありますのは、朝倉市はフルーツが多いんですけれども、今、お礼の品として出しているのは、ほかの市場とか、これまでの需要があるところを減らしてやっているという部分もあります。

ですから、増産をするというようなことも必要となってまいりますので、ですから、全体を考えながら、量の確保には必要があるなというふうに思っているところもございます。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　そういった返礼品については、御苦労があるかというふうに思っております。

ただ、私が思っておりますのは、私の知り合いにも、ふるさと納税が好きな方がいらっしゃって、お米をもらったりとか肉をもらったりしてるんですけど、そのふるさと納税を

したまちがどこにあるかわからないと言うんです。

ですから、もう本当に通販と一緒で果たしていいんだろうかと、総務省が一言ちょっと注意をするのも、気持ちがわからんでもないなというふうに思うときがございます。

そういった意味で、返礼品だけに頼らずに、やはり先ほど言いましたように動画であったりとか、朝倉市がこういったことに使いますよという情報発信、それにある程度重点を移していって、私はやっていったほうがいい。

返礼品だけでやると、どうしても経費もかかっていってしまいまして、不毛な競争になってしまいますので、そこの部分をもう一度御再考いただければというふうに思ってますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　私どもも、情報発信は大変重要だというふうに思っておりますので、その方法とか、どういった形で行くかにつきましても、十分検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　そうしましたらば、財政見通しの分で話なんですが、先ほど言いましたように「入るを量りて出ずるを為す」と、今度は「出ずるを為す」という、部分でございます。

よく市民の方から言われるのが、大型事業が続いたなあと、一遍に来たねという言葉をよく聞きます。これはなぜかといいますと、合併特例債を使うという締め切り効果があるから、どうしても集中的にやらざるを得なかった部分というのはあると思います。

ですけれども、やはりこの財政の基調を見ますと、市長は今回、予算計上を体育館についても見送りましたように、支出の平準化を図っていく必要があるんではないかなというふうに思っております。

そういった意味では、あと一段の切り込みと言いますか、事業を後ずらしというのが、私は必要になってくるのではないかというふうに思っております。

そういった中で、まず、その点についてはいかがでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　財政の見通しにつきましては、これまでずっと伸びておりますように、一つの条件を付与した場合にこうなるというふうなことでございますので、実際の予算づけとかといいますのは、またきちんと考えていきますけれども、今の条件の中ではこうなるというふうな資料というふうに、受けとめていただきたいというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　そういった中で、施政方針の中で、市長が「私は過去を振り返ったときに、朝倉市にとって賢い選択だったと言える判断を下すよう心がけて、行政運営に

立ち向かっているところであります」と、「十文字公園の整備を都市公園事業で取り組むこととした際に、交付金の獲得が極めて厳しい状況であることを申しておりましたが、現在、不透明度がさらに増しております」というふうに書いてあります。

そういったことで、市長は見送ることをお決めになられたわけですが、市長の任期はあと１年でございます。

市長は、きっと次の３期目も、お目指しになるというお気持ちがあるというふうには、私も思っておりますが、しかし、市長が必ず３期目に市長であるということは、現時点では担保はされておりません。確定するわけではありません。

そしたら、ひょっとしたらできなくなるかもしれませんよね、体育館というのは、次の市長さんが建てないと言うかもしれない、できなくなるかもしれない。

そしたら、私は建てるという選択肢、ここはもう、「えい、やー」で、「えい、やー」ちょっと言葉悪いですね、必要なんだと、体育館は必要だから建てるんだということで、そこで建てるという選択肢も、私はあったのではないかなというふうに思っております。

そういった中で、市長は朝倉市にとって賢い選択だったというふうに言える判断を下したいということで、そういった御決断をなさったんですが、なぜとめたのか。

そして、もし次の３期目、未来の市長、もしかしたら森田市長御自身かもしれませんけれども、その市長に対しては、どういうお気持ちをお持ちなのか。

やはり、今でも、ある程度時期が来たら、体育館は建てるべきだというふうにお考えなのか、それをお尋ねします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　もう次の期の心配までしていただきまして、私は今回、予算を１年、とりあえず来年度には実施設計予算を上げなかったというのは、説明を申し上げましたように、いわゆる幾つかの要素がございます。

一つには、先ほど言いましたように、国の公園関係の予算が、言いましたように平成19年、ラグビーのワールドカップ、それから20年の東京オリンピック等で、公園予算というのは非常に厳しい状況に、これはもう実際、担当の国土交通省の都市局というところですけど、都市局の審議官とか担当課長等の話の中で、相当厳しいですよという話を聞いた中での判断が一つ、それと、新たに今度は322のクランクとその周辺の整備も、一つの朝倉市にとって重要なあれとして上がってきた。

そういったことを、これはやっていくということになりますと、ちょっともう少し将来の財政的なもろもろをきちっと見きわめた上でやったほうがいいだろうということで、ずらしたということです。

それと、もう一つ、私は、そう言いながらも、私はやっぱり体育館は必要だと思っているんです。ですから、できる限りやっぱりやっていきたいなと、つくりたいというのが本当です。

ただし、将来、さっき言ったように、将来にわたって財政の問題、そしてもちろん一番大事なのは、そのことによって市民に対するサービスの低下とかが来しちゃいかんという思いの中で、ぎりぎりまで見きわめた上でつくりたいというような思いでありました。

次の市長さんからはその人の判断ですから、私がとやかく言う話じゃないんですけれども、私としてはそう思っていますということです。（発言する者あり）失礼。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　間違うとったです。

ワールドカップは2019年ですね、平成19年って言ったみたいですけれども、失礼しました。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　財政見通しというのは、単なる数字の集まりでデータであるから、そこであんまり深読みはしないでほしいというお気持ちはわかります。

そして、こういったものを出してくださるということは、本当にすばらしいことだなというふうに思っています。

ただ、私は先ほど言いましたように、やはりそこに解釈を、何らかの解釈を加えて、行動を起こしていくべきだというふうに考えております。

そういった中で、市長は、やはり体育館は必要だから、将来、機が熟せば、つくりたいというふうにお考えだというのもよくわかりました。

その一方で、私はやはりこの予算編成方針にも書いてありますけれども、経常収支比率が89.9％、約90％、それから財政力指数が0.55、決して優等生ではないですよね。そして、322も出てきた。

そういった中で、体育館というのは当然大型事業ですし、それから322も大型事業、まだ大型事業、幾つもあります。

そういった中で、平準化を図っていく必要に私は迫られるんじゃないかなと、そういった中で、私は322のほうが優先順位が上に来ると、朝倉市にとって、また新たな中心市街地を開発するチャンスだと、好機だというふうに考えております。

だから、私は優先順位が高くなる、当然、322が何よりもまして一番に来るというふうに考えているんですが、この点はいかがお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　最終的に、例えばの話として、体育館と322と、どっちか一つ取れということになれば、その時点で判断しなきゃならんと思います。

しかし、今の時点では、それはそれぞれにやっぱり大事なことだということでやっとるわけで、そういう形で体育館については１年間、１年というか、実施設計を来年度は載せないということにしましたけれども、ですから、その中で、何度も言うんですけれども、十分、極力見きわめて、将来にわたる財政状況を見きわめてやっていきたいということで

す。

　それと、財政の見通しを、ただ単に私どもは出して、ああ、こげんなるというだけじゃない、これは非常に重たく、私どもとしては受けとめておる数字なんです。

　ただし、私、この前も申し上げましたように、平成28年度、今年度ですけれども、今年度は、昨年度の財政見通しの表を見てもらえばわかると思いますが、今年度は単年度で、今までの昨年度までは、28年度は単年度で１億7,000万円の赤字で見込んでおったんです。

　しかし、現実問題、まだ終わってませんけれども、28年終わってませんけれども、恐らく何億円、四、五億円か知りませんけど、その程度黒字になるだろうと、これは先ほども、この前の答弁でも言いましたように、部長がいろんな状況、その説明をしました。

　そういう状況ですから、そういうこともありますので、ですから極力間際まできちっと見きわめた上で進みたいということです。以上です。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　例えば、体育館と322、どっちか片一方とれとか、そういった物事を単純化するような、そんな、政治ってそんな単純なものじゃありませんので、そんなつもりは毛頭ございません。

　ただ、大きな事業が目の前にぶら下がっているといいますか、これは本当に10年後の話ですので、10年後と言ったらいけないんですかね、10年ぐらい先の話か、ひょっとしたら５年後かもしれません。

　でも、近々来る話ですので、これは我々は備えておかないといけないと思います。財源的にもですね。ですから、そこのところで、また大きな判断を迫られると思いますので、これは議員もそうですし、執行部の皆さんも備えておくべき話ではないかというふうに考えております。

　時間が、済みません、そういった中でなくなってきたんですが、どこにちょっと書いているか、済みません、ぱっとわからなくなってしまったんですが、「10年後の財政状況を見据えた運営を行ってまいります」という言葉がございます。済みません、３ページの上です。

　これは、もちろんバランスをとって活性化もやる、それから人口もふやす、赤字も出さない、黒字化する、こういった言葉で言うのは簡単なんですけれども、ただ、じゃあ、どうやってやるんですかと、10年後の財政状況を見据えた運営を行っていきますということは、どうやってやるんですかということをお尋ねしたいと思います。

　私は、10年後の財政を見据えて運営をやっていくんであれば、ある程度、慎重にならざるを得ないと、そういうふうに思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君）　総務部長。

○総務部長（鶴田　浩君）　一定の条件を付しますと、こういうことになるというようなのが、財政の見通しだということを申しておりましたけれども、もしこういう一定の条件

からこうなるとするならば、そうならないようにするというのが財政運営だというふうに思っております。

となりますと、どうするか、例えば今、行政評価とかで事務事業の見直しなりをやっていくと、それから、今後、行革を進めて、出も入りもきちんと中身を見ていくというような考え方を持っております。

そういった、この見通しから来る取り組みの考え方が出てまいりますので、財政運営とすれば、そういうさまざまな取り組み方が、財政の見直しから出てきたというものでございます。

私はこの財政見通しにつきましては、10年後につきまして、議員の皆様を初め、市民の皆様につきましても、中長期的な財政を見ていこうというような大きな効果があったというふうに思っておりますので、ほかの自治体がどうかわかりませんけれども、朝倉市とすれば、この見通しにつきましては大変いいものだといいますか、検討することができるようになっているというふうに受けとめているところです。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　先ほど、市長がおっしゃられましたけど、この資料というのは非常に重たく受けとめていると、この資料が出てきたから、私たちは、ある意味、羅針盤みたいな形で使って、嵐の中を迷わずに進めるのかもしれないというふうに思っております。

ですから、これからこれに解釈を加えて、どう行動していくのか、これが私は大事じゃないかというふうに思っております。

あと２分少々になりましたが、最後に、ここの部分はどうしてもお聞きしたいと思っております。

322のクランクの問題でございます。

「将来の朝倉市の都市部、地域発展に大きく貢献すると考えております」というくだりがあります。市長、なぜこのように考えるのか、お願いいたします。

○議長（浅尾静二君）　市長。

○市長（森田俊介君）　御存じのように、あそこの地域は、いわゆる西鉄甘木線、それから甘木鉄道という２本の、いわゆる軌道の駅がございます。

特に、私どもが将来を見ていく上で、人口減少に歯どめをかける上で必要なことというのは、やはりこの地域で、この地域の内部で働く人を、この地域で働けるようにすること。

それと、もう一つは、やはりどうしても福岡というものを目に入れておかなきゃならん。いわゆる通勤、福岡で働く人はこの地域に住んでいただきたい、そうすると、距離的にも、今のところ１時間ちょっとぐらいで、基山で乗りかえれば博多まで行きます。そういったところ。

それと、あそこの地域を、要するに、バス停は、今、甘木中央バス停があります。あれはあれとして甘木の交通の中心でしょうけど、もう一つ、あそこに、例えば、今、朝倉市

で運営しているデマンドバスとか巡回バスをあそこに乗り入れさせて、あそこから通勤ができる、あるいは買い物に行けるような地域にする。

そして、そこに、あわせて今度は民間の資本を呼び込んで、集合住宅なり何なりを開発していく、そうしますと随分あそこの地域が中心になってきて、朝倉市にとっても、将来にとって非常に大事な場所になってくるだろうというふうに思っています。そういう面で申し上げておるということです。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　経済的な発展、地域の活性化と、それから財政均衡、私はバランスというのがこれから大切だと思います。

この資料を見て、洞察力を高めたいと思っております。終わります。

○議長（浅尾静二君）　10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後２時10分休憩